

○議長（一條 光君） 通告 7 番、2 番尾形 明君の一般質問を許可いたします。御登壇願います。

〔2 番 尾形 明君 登壇〕

○2 番（尾形 明君） 通告どおり質問させていただきたいと思います。

私は、いつまでも元気なまち加美町を目指す、そのために観光の振興は大いなる経済効果があると思う一人であります。我が町の観光行政について質問させていただきます。

我が町において平成21年度は約132万人の観光客とありますが、景気の低迷、雇用の不安などにより、本年あるいは今後の動向をどのように見ているのか。また、国においては観光立国推進基本計画が作成されており、我が町においても、今後、観光行政を推進するための計画作成を考えているのか。以上、お願いします。

○議長（一條 光君） 町長。

〔町長 佐藤澄男君 登壇〕

○町長（佐藤澄男君） 尾形 明議員から、我が町の観光行政についてということで、いつまでも元気な加美町をつくっていくためにというようなことで大きな観点から御質問をいただいたというふうに思っております。

132万人の観光客数ということでございますが、これは、県内の観光客入込数市町村別一覧表というのが手元にあるんでございますが、まさしく加美町は132万7,741人ということでございまして、35市町村のうちで11番目にランクをされているということでございます。この要素は、改めて申し上げるまでもなく、これまで旧 3 町で取り組んできたものを加美町が引き継いだものでございまして、例を挙げれば、春の初午まつりから始まりましてゴールデンウィーク期間中に陶芸の里まつり、やくらい春まつり、こういったイベントの際には相当の観光客が加美町を訪れております。また、やくらいの温泉施設、陶芸の里温泉施設、あるいはふれあいの森パークゴルフ場につきましても順調に客足を伸ばしている状況がこの数字にあらわれているということでございます。逆に、景気が低迷しているからこそ、今、近場で仙台圏から気軽に楽しめる交流の地としておいでいただく方がふえているのかなという思いを持っております。

次に、来年以降の動向について申し上げますと、なかなか予測を立てるのが困難な経済状況にございます。しかし、その中でもはっきりしていることは、高校生の祭典でありますインターハイがこのカヌーレーシング競技場で開催されるということが決定され、既に実行委員会が立ち上げをされております。御案内のとおり全国各地より競技役員、選手、応援の方々がおいでくださるということで、目標で約1,000人を見込んでいるということでございます。8 月の上旬の開催ということになります。こういった機会をとらえて、まだ高校生の諸君であります

けれども、応援に来られる方々も含めて二度三度と足を運んでいただけるように、加美町のよさをアピール、PRをしていきたいと。また、セントラル自動車、東京エレクトロンの移住してこられる社員の方々にも、先ほど御質問にお答えをしたような形で今後より一層創意工夫をしながら、こういったイベントなどに参加をいただけるように努力をしてみたいというふうに考えております。

次に、観光行政を推進していくための計画策定を考えているのかという御質問でございますが、国におきましては、ただいま質問されましたとおり、19年1月に施行されました観光立国推進基本法に基づきまして、観光産業に対する国際競争力の強化などの施策を講ずるために、平成19年6月に観光立国推進基本計画を策定いたしております。この計画内容でございますが、これは国としてあくまでも外国の観光客を受け入れするという計画になっております。以来、大変仙台でも感じるんですが、東京などに参りますと、中国から、あるいは韓国からと思われる団体客が非常にふえているということでございまして、こういったことも町の取り組みが可能なかどうか。青森駅までの東北新幹線全線開通にあわせて本年もデスティネーションキャンペーンを引き続きやっているわけでございまして、この計画に沿って今年度の後期の入込客を期待をしているということでございます。

県内各自治体の状況を申し上げますと、観光に関する条例を制定しているというのは、松島町の観光審議会条例ということで制定をしているのが1例だけあるということでございます。また、観光振興計画などを作成している市町村は、大崎市、多賀城市、蔵王町及び松島町の2市2町でございます。いずれも県内有数の観光地、温泉、遺跡などを所有している自治体となっております。

加美町といたしましては、こういった大きな動向、流れの中で、あるいはほかの市町村の状況をにらみながら、この豊かな自然を売りに、そして愛される交流人口の拡大、観光客の入り込み、振興計画の作成を検討していきたいものだというふうに思っておりますので、尾形議員におかれましてはこれまで以上にいろんな角度から御提言をいただければありがたいと思っております。

○議長（一條 光君） 尾形 明君。

○2番（尾形 明君） 先月、議員研修におきまして北海道の留寿都村の方に研修に行ってきたんですが、小さな村で、海拔360メートルから380メートルで人口が2,100人程度というふうなことで、そこで民間の観光業者が年間に130万人の集客をしているというふうなことでありました。その内容を見ますと、スキー場、それからゴルフ場、遊園地、そしてホテルというふう

なことでレジャー施設等々が整備されておりました。

そこで、我が町で21年度におきまして132万人の集客というふうに算出されているわけですが、これはどういうふうな算出の方法なのかということと、130万人の観光客による経済効果は幾らぐらいなのかということで計算したことがあるかどうかお伺いしたいと思います。

○議長（一條 光君） 商工観光課長。

○商工観光課長（佐藤勇悦君） 商工観光課長です。お答えいたします。

ただいま21年の観光客数132万の算出方法という質問でございますけれども、これにつきましては、毎年1月から12月まで、ですから年度じゃなくて年でカウントしていますけれども、これは県の調査の依頼に基づいて行っております。正式には市町村観光地点入込客数調査という名目で調査をしております。

調査の内容につきましては分類がございます。中分類といいまして7分類に基づきまして、加美町では42の地点を設けて調査を実施しております。主な代表的な観光地点の一例を申し上げますと、歴史・文化の分類では中新田文化会館、切込焼の記念館、東北陶磁文化館等がございます。あと、温泉の分類になりますとやくらい薬師の湯、陶芸の里ゆ〜らんど。スポーツの分類ではやくらいゴルフクラブ、ウォーターパーク、ふれあいの森公園パークゴルフ場など。あと観光の分類ではやくらいガーデン、買い物ではやくらい土産センターなどが主な観光地点として設定を加美町ではしております。それが42の地点を設定しているということでございます。

加美町の42の観光地点における平成21年の入込数は、先ほど尾形議員おっしゃったように132万7,741人となっております。参考までに、平成20年につきましては127万4,264人ということでしたので、21年につきましては5万3,477人増加しているということでございます。以上です。

大変申しわけございません。経済効果ということになりますと、ただいま42の観光地点でかなり細かく分かれておりますので、そのトータルにつきましてはこの調査の対象にはなっていませんけれども、このぐらいの、先ほど町長も説明したとおり県内で11番目の入込客数ということになっていますので、かなりの経済効果があったかと推測されます。以上でございます。

○議長（一條 光君） 尾形 明君。

○2番（尾形 明君） 私は観光を大いに進めるべきというふうに思いますのは、例えば土産センターの例なんです、合併当時、年間80万から90万人と言われた観光客がおりました。それが昨年には132万と。平成6年8月にオープンした土産センターが当初5,800万の売り上げでし

た。8月オープンですから月が足りないんですけども。それが、合併当時、15年ですね、1億9,000万。21年におきましては2億6,000万と大幅にアップしております。

こうした中において、加美町は自然に恵まれ、薬菜山あるいは鳴瀬川、また観光施設群の整備の充実等もされております。また、文化施設におきましてはバッハホール、やくらい文化センター、陶芸の里スポーツ公園、カヌー場、あゆの里公園、交流センター、社会教育施設群の充実も他の市町村からすれば十分に整備された施設ではないかというふうに思っております。そしてまた、食文化や地場産品においてもさらに磨きをかければ、加美町の魅力を十分に発揮することができれば、まだまだ観光客の大幅増員が可能ではないかというふうに思っております。

そこで、宿泊のやくらい施設群、ゆ〜らんど、交流センターというふうなことでちょっと調査をしました。やくらい施設群とゆ〜らんどは指定管理者ということで企業の努力が必要ということもありますが、宿泊だけで見ますと、林泉館・都邑館、コテージということで最大で1泊で141名。ゆ〜らんどにおきましてはコテージとキャンプで7,354名。これは去年の数字です。交流センターにおきましては2,883名というふうな宿泊であります。こうしたことから見れば、宿泊のキャパシティーからいえばもっともっと動員ができるのかなというふうに思っております。

それからまた体育関連の施設の利用状況を見てみましたが、陶芸の里スポーツ公園、総合体育館で去年が2万5,992名、陸上競技場で1万376人、野球場で4,808、テニス1,554、そしてカヌー場においては9,454ということで、今後こうした宿泊施設と社会教育関連の施設の組み合わせをうまく考えて、そしてまた農業と、あるいは農業体験のグリーンツーリズム等々を組み合わせたオリジナルのプランをつくれれば、もっともっと集客ができるのではないかなというふうに考えますが、商工観光課長さん、答弁をお願いします。

○議長（一條 光君） 商工観光課長。

○商工観光課長（佐藤勇悦君） 商工観光課長でございます。

ただいまの尾形議員の趣旨につきましては十分わかるつもりでありますけれども、多分、いろんな施設を連携させて集客に向けたらいいんじゃないのかというような御質問でよろしいでしょうか。（「はい」の声あり）

やくらいの施設群なりゆ〜らんどにつきましては、先ほどおっしゃられましたとおり指定管理ということで、町から指定管理としてあれています。ただ、やくらいにつきましては、そのほかにゴルフ場なり、あとやくらいガーデンなり、民間の企業も入っております。それで、

年に数回なんですけれども、商工観光課が事務局となりまして、その関連施設、ゆ〜らんども入りますし中新田の振興公社も入りますけれども、誘客会議を年に数回開催をしております。その目的といたしましては、各旅行の情報誌等がございますので、その雑誌に共同でいろんな宣伝をしようということと、あと、各自ばらばらのイベントじゃなくて、その施設群なりが横の連携をとって行事を行う、イベントをするというような形で横の連絡の調整は図っているつもりでございます。

また、教育委員会の施設との連携につきましては、まだそこまで連携はされてはいないんですけれども、ただ、今回の通告には教育委員会の部門がございませんので、町長の答弁ということなので、ちょっと私の方から参考までにお話しさせていただきますと、今回、セントラル自動車が宮城県に進出するということがございます。それで、セントラル自動車の大衡に誘致の会社移転準備室ということで2名ほどの社員が配置されていますけれども、そこからの情報で、一つは保養所が県内にどこかあるかどうかというような形で探しているという情報がありました。ただ、保養所につきましてはもう既に決定したということで、ゆ〜らんどなり陶芸の里、やくらいとか全部こちらから資料をやったんですけれども、それから漏れたと。あともう一つ、社員用の研修する施設を探しているということで、宿泊施設を伴う施設としまして中新田の交流センター、あとやくらいの林泉館なり都邑館、ゆ〜らんど、あと、宿泊を伴わない施設として中新田、小野田の文化会館等を利用していただけないかという形で、今セントラル自動車の準備室の方に働きかけているという実情でございます。

それに関しましてはいい悪いの返事はまだ来ていないんですけれども、その辺の教育施設なり観光施設をフルに活用いたしまして、そういう機会をとらえまして加美町の方に足を向けていただく、または施設を利用していただくというような形でこちらでいろんな事業なりを持っているということでございます。以上でございます。

○議長（一條 光君） 尾形 明君。

○2番（尾形 明君） 先ほど、前の質問にもあったかと思いますが、7月には町長がセントラル自動車の本社に出向いて観光と定住というふうなことでPRをしてきたというふうなことで、その感触はいかがだったでしょうか。

○議長（一條 光君） 町長。

○町長（佐藤澄男君） とても暑い日でございまして、職員と合わせて4人参りました。スタイルは、お昼の時間帯、食堂に来る人たちに対する町のPR活動でございました。受け取ってくれる人たちが多いわけ……、当然そういうねらいで行ったことなので、あるいはその中に「私

も加美町出身です」という人も何人かおりました。その後、社長以下役員の方々と懇談をする機会をいただいたということは先ほどお話し申し上げたとおりです。その晩に相模原の駅前で、町出身のカトウさん、ゴトウさんというお二人の方がおられます、と常務さんを入れて交流会をさせていただいたということで、その折に、移転してくる人たちの意識の把握といいますか、こちらからすればどういう考えでおられるかというようなことの問いかけ、あるいはこうしたらいいでしょうというアドバイスもいただいてきたと、こういうことでございます。

今の質問の趣旨に照らし合わせますれば、きょう近藤議員の御質問にもお答えをさせていただいたとおり、12日のべこっこまつりに社長さんがおいでをいただくと。かなり強行な日程ではあるんですが来ていただくということでございますから、これは大きな成果として今後につなげていく非常に大きなステップになるというふうに思っております。言うなれば、今すぐ加美町に住むという計画がない人でも、一度行ってみようということにまずなってもらうことが肝心なことでございますので、そういう意味では非常に大きな……、町としても歓迎をしながら、これをつなげていくいい機会をいただいたということで大事にしていきたいというふうに思っている次第です。以上です。

○議長（一條 光君） 尾形 明君。

○2番（尾形 明君） 町長には今後とも、セントラル自動車に限らず、加美町の観光、そしてまた定住というふうなことで、トップセールスを大いにやっていただければいいのかなというふうに思います。

そしてまた、今後の観光あるいは定住ということを考えてときに、商工観光課が現在窓口になっているわけですが、やはり先ほど言ったように加美町教育施設の充実のすばらしさは県下でも知られていることで、今後、教育委員会、あるいは社会教育課、あるいは体育振興課の方で連携をとりながら、いかにいい商品を提案できて、そしてまた多くの人に滞在あるいは観光に来てもらえるかというふうなことを今後考えていただければありがたいというふうに思います。

議長、教育課長さんにも、通告はしていませんが、その辺の考え方をちょっとお伺いしたいと思いますが、いかがですか。

○議長（一條 光君） 教育総務課長。……体育課長。（「社会教育課長、まずお願いします」の声あり）

○社会教育課長（鈴木啓三君） 社会教育課長、お答えいたします。

大変すばらしい提案をいただきまして、それに向かって商工観光課と連携をとりながらやっ

てまいりたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（一條 光君） 尾形 明君。

○2番（尾形 明君） 体育課長にもよければお願ひしたいんですが。

○議長（一條 光君） 通告制は、より専門的で、そして正確な答弁を引き出すための通告制でありますので、この辺で御勘弁をいただきたいと思います。（「わかりました」の声あり）

尾形 明君。

○2番（尾形 明君） それでは、話題を変えたいと思いますが、加美町の観光協会の現状とそして今後について、商工課長お願いします。

○議長（一條 光君） 商工観光課長。

○商工観光課長（佐藤勇悦君） 商工観光課長、お答えいたします。

加美町の観光協会の現状と、あと今後ということでございますけれども、議員御案内のとおり、加美町観光協会につきましては、昭和46年に創立されました小野田観光協会が合併後もそのまま引き続き加美町観光協会というふうに引き継がれた団体でございます。合併当時の話を聞きますと、宮崎地区あるいは中新田地区にも会員の加入を働きかけたという経緯があるようですけれども、両地区からの加入がなかったというところで現在まで至っているという状況でございます。

また、今後につきましては、現在の加美町観光協会は先ほどお話ししたように旧小野田町の会員のみということになっていきますので、それで、町からの補助金なりも出ておりません。というのは、繰越金がございますので、その繰越金を活用して研修会をしているという状況ですので、実質的な活動は今のところ見られていないというのが現状でございます。ですから、町といたしましては、現在の観光協会をもしできれば一度解散をいたしまして、今後、農業なり商業の代表者、農協、商工会あるいは企業を加えまして、新たな加美町の観光協会を設立できればというような形で現在考えております。まだ現在の加美町の観光協会の方にはその旨はお話はしていないんですけれども、今後そういう形で調整していきたいというような考え方でございます。

議員おわかりのとおり加美町にはいろんなフェスティバル等がございます、すべて実行委員会を組んで開催しておりますけれども、実情は町が主導で事務局をやってイベントを開催しているという現状でございます。ですから、観光協会を少し充実させて、若い力をかりながらイベントなりフェスティバルなりにどんどん加わっていただいて、一緒に開催していければというところを目指したいなというような考え方でございます。以上でございます。

○議長（一條 光君） 尾形 明君。

○2番（尾形 明君） ただいま観光協会について説明を受けたんですが、現在の協会を解散して新たにというふうなことです、めどはあるんでしょうか。いつごろまでに新しい協会を立ち上げたいとかというふうなことはあるんでしょうか。

○議長（一條 光君） 観光課長。

○商工観光課長（佐藤勇悦君） 商工観光課長です。

先ほど答弁したようにまだ正式的には現在の観光協会の方には打診はしておりませんが、一応今年度をめどにしてある一定の方向性を打ち出していきたいなとは思っております。ですから、現在の観光協会の処遇といたらいいんですかね、会員の方々がどういう形で承していただくかということの決定次第になりますけれども、現在の観光協会の処遇なりにつきましては、今年度中をめどにその辺の対応をこちらでしていきたいと。ですから、それが正式に決まった時点でもしできれば新しい設立がなされるとすれば、それはその後の来年度以降の期間で早急にやりたいと、進めていきたいというふうに思っております。以上です。

○議長（一條 光君） 尾形 明君。

○2番（尾形 明君） 先ほど町長の答弁の中で、振興計画の策定を検討していきたいというふうなことでありますが、今後、加美町の観光ということを考えたときに、ぜひ早目に観光振興の計画策定の検討委員会なるものを立ち上げていただければありがたいなというふうに思っております。

最後に、先ほども話をしたわけですが、今後とも町長のトップセールスはもとより、町民挙げてセールスマンとなって加美町をPRする必要があるのかなというふうなことで、もう一つ環境整備も、行政のみならず、住民も加美町に来ていただくお客さんのためにどういうふうなことができるのかということもあわせて考えなければならないのかなと思っています。

あと一つ、今後、庁舎の建設を今からやっていくわけですが、考えてみれば、庁舎も集客の一つというふうなことで考えることができるのではないかなというふうに思っております。でありますので、特徴ある、そしてまた魅力ある庁舎建設をお願いしたいものだというふうに思います。そういった意味で、庁舎には先ほどからも質問あったんですが、町民の方々が望むような庁舎建設もお願いできればなというふうに思います。

今後とも、町民挙げて観光の整備、そしてまた商品開発等を考えながら、自分たちがつくり、そして自分たちが売り込む町の魅力、そして町の再発見を考えて質問を終わらせていただきます。



○議長（一條 光君） 以上をもちまして、２番尾形 明君の一般質問は終了いたしました。

以上で本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれで散会いたします。

なお、明日は午前10時まで本議場に御参集願います。

大変御苦労さまでした。